

田村のつぶやき 第27号

2024.7.7 発行

文責：島根県立江津高等学校長 田村康雄

7月7日、今日は何の日？

「今日は何の日？」シリーズが続きます。今日は7月7日。7月7日といえば…そう「七夕（たなばた）」ですよ。今年も図書館前に七夕飾りが登場しました。生徒のみなさんが短冊に込めた願いが叶うといいですね。

七夕は、織姫（おりひめ）と彦星（ひこぼし）が天の川を渡って年に一度だけ会うことができるという中国の伝説に由来する日です。この伝説が奈良時代に日本に伝わり、日本に元々あった七夕信仰と結びついて年中行事としての七夕へと発展したといわれています。七夕はお盆行事の一部でもあり笹は精霊（祖先の霊）が宿る依代（よりしろ）であり、短冊などを笹に飾る風習は、江戸時代から始まったものです。織姫星（織女星）は、こと座のベガ、彦星（牽牛星）は、わし座のアルタイルです。この二つの星に、はくちょう座のデネブを加えた三つの星を結びと大きな三角形となり「夏の大三角」と呼ばれています。宮城県の仙台では、月遅れの8月7日を中日として、8月6日から8日の3間にわたり「仙台七夕まつり」が開催されます。仙台七夕まつりは、仙台藩主伊達政宗の頃に始まったとされますが、詳細は不明です。仙台七夕まつり、青森ねぶた祭、秋田竿燈まつりは「東北三大祭り」として有名です。山形花笠まつりを加えて「東北四大祭り」と呼ばれることもあります。

七夕つながりで7月7日は、次のような記念日もあります。

「川の日」

七夕伝説の「天の川」のイメージがあること、7月が「河川愛護月間」であることから近代河川制度 100 周年にあたる 1996 年に建設省（現国土交通省）が制定。

「ゆかたの日」

七夕は古くは「棚機」と表記され、古来衣服を縫って祖霊に供えたこと、七夕行事として、裁縫の上達を祈り、衣類に感謝する日だったという中国の故事に因み、1981年に日本ゆかた連合会が制定。

「そうめんの日」

平安時代、七夕の日に「天の川」にみたてて麺類を食べる風習があったこと、七夕の儀式の供物の一つに「そうめん」の原型といわれる「索餅（さくへい）」が供えられていたことから 1982 年に全国乾麺協同組合連合会、全国乾めん普及協議会が制定。

「ポニーテールの日」

7月7日が七夕、ゆかたの日であり、七夕伝説の織姫や浴衣にポニーテールがよく似合うことから 1995 年に日本ポニーテール協会が制定。（これは、かなり無理がある気がしますが…）

ところで、5月4日が「スターウォーズの日」というのは知っていますか？

詳しくは英語科のT先生に聞いてみてください。